

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会との連携を主とし、積極的な活動の参加に努める事を運営理念にあげている。	二ヶ月に一度の運営推進委員会を開催し、地域の協力を呼びかけている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度の全体ミーティング及び月に一度のGHミーティングの唱和で周知している。各自理念に基づいた自己目標を設定して、毎月評価を行い、介護技術の向上に取り組んでいる。	各職員が理念に基づいた自己目標に対する評価を行い、管理者及び管理職は必ず意見を記入し、フィードバックされた意見を職員は介護に役立てている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入り口には運営理念を掲示し、来客、家族、職員が常に目に付くように掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出で隣近所の方と会ったときは職員全員が明るい挨拶を心がけている。家族の来所はほぼ毎日あり、同施設内の利用者等の来所もある。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長のご協力により、老人会の方々の行事参加、協力を得ることが出来ている。	年に2回開催する「持ちつき大会」に区長初め老人会の方々の参加、協力を得ることが出来た。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	見学者、実習生等に認知症の初期症状や病気であることの説明を行い、一人でも多くの人に関心をもってもらうように努めている。	○	認知症専門の施設であるため、認知症に関して地域に協力できること見つけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	介護目標を個別にたて、毎月各自が評価を行なっている。それをGHのミーティングで発表し、アドバイスを受け、反省点について各自が改善に取り組んでいる。	○	評価を自分で行い、アドバイスを受けたことで、より一層の向上を目指していきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	活発な意見交換がなされている。その意見をサービスの向上に役立っている。	○	ご家族より、「行っているサービスに対してのアピールをすればよいのでは」とのご意見を頂いた。日頃の取り組み等についてのアピールの方法を考えていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	敦賀市主催の「脳の健康教室」で介護予防の協力を行うことが出来た。	○	評判がよく、継続の予定である。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	資料による制度についての学習会を行なっている。今のところ利用者に必要な性を感じていない。	○	職員の研修を行いたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	他施設での事件等を周知し、検討、確認を行うことで、虐待についての意識を高めている。	○	職員の研修を継続して実施し、虐待防止の徹底に取り組みたい。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に説明を行い、疑問点に関しては、いつでも受け入れ、説明を行うことで解決に努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も利用者、家族等の不安、疑問点に対し、誠意をもって対応していきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価をうけ、公表している。</p>	<p>利用者の意見を取り入れられるGHが理想だが、意志表示がないことが多いのが現状である。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月利用者の状況報告書を作成し、家族に郵送している。家族の来所を積極的に受け入れている。身体状況の変化等には家族との連絡をとるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>状況報告書の内容の充実をはかり、家族の知りたい情報を提供出来る様に一層努力したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進委員会に参加していただき、その場で意見を求め、参考にしている。</p>	<p>○</p> <p>思いを聞き取ることを大切、コミュニケーションをとっていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度のGHミーティングで職員全員が意見を発表する機会を設けている。</p>	<p>職員間のコミュニケーションは十分とれている。現場の意見を取り入れてもらえる場を設けたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の急変時には職員が受診に付き添うことが出来た。行事には全員を配置し、対応することが出来た。</p>	<p>○</p> <p>状況に合わせて勤務調整を行い、日中の勤務の充実を心掛けている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限に抑えられている。ダメージは今のところ感じられない。</p>	

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に一度のGHミーティングのあと介護技術・認知症に関する学習会を行なっている。 接遇、レクレーション等の研修を他部所と合同で行っている。 認知症ケア専門士の受験に向けて学習を行っている。</p>	<p>○</p> <p>職員が介護を専門職として考えられるような、介護の質の向上に取り組みたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症介護実践者研修に参加し、ネットワーク作りに取り組むことができた。</p>	<p>○</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>上司への相談で改善されることもある。 常に職員から業務上の不満を聞き、それに伴うストレスの軽減に努めている。</p>	<p>○</p> <p>プライベートでの付き合いもあり、雰囲気は和気藹々としている。理想と現実のギャップを少しでも埋めて、働きやすい職場を目指したい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得に関する勉強会を月に一度行っている。</p>	<p>○</p> <p>学習内容をどう現場につなげていくかの指導を行いたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所当初は介護目標に「馴染みの関係作り」を第一に挙げ、介護にあたっている。</p>	<p>○</p> <p>SOAPでの記録の充実という課題に伴い、観察したことや聴いたことに関しては記録を行っている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>GHの受け入れ態勢は出来ているが、来所が少なく説明が不足し通院等に行き違いがあった。利用者本人の明るくなる状況を見て、納得していただいた。</p>	<p>○</p> <p>介護計画書を早期に作成し、御家族の意見に対し確認を行っている。</p>

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学はいつでも受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の介護度・認知度が高く「支えあう関係」を築きにくいのが現状ではあるが、側に居て「お互いが安心」と思う関係は出来ている。	○	余裕を持ち、ゆったりした時間を共に過ごすことを理想として接したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所がととても多く、話をする機会も多い。一緒に行事にも参加してもらっている。	○	利用者を支える一番大切なものが「家族」であるという考えをもとに協力してもらえる環境作りをしていきたい。家族が預けたので「後は関係ない」と考えている御家族に対しての協力をどうやって得るかが課題である。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	GH内でも利用者と家族が過ごす時間を大切にしながら、家族との人間関係をよりよくすることで、利用者が過ごしやすくなるように援助している。	○	認知症の症状により、ひびの入った家族関係が見えてくる。認知症は病気であることを理解してもらおう努力を継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別訪問で本人の希望又は自宅等へ行くことで、少しでも維持できるように援助している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は出来るだけホールで過ごし、利用者同士一緒に過ごす時間を設けている。利用者の介護度が高いため、間で会話をつなぐ援助を心がけている。	○	利用者によっては利用者との会話を望まない方もいる。職員からの積極的な声かけを行っている。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話での相談を受けたり、新しい入所先に確認をおこなってから、面会をさせていただいている。		改良点について意見を出してもらえると良い。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知度が高いため希望・意向を話せる人は少ないため、家族の協力により情報を収集し、本人の考えに近づける援助を行なっている。	○	少しでも本人の意思に近づける努力を重ね、その人らしい暮らしになる援助を行ないたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集は家族等の協力を得ている。少しでも多くの情報を得る努力を行っている。	○	アセスメントにセンター方式を用い、職員全員で情報の整理・分析を行なっている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員が利用者を観察し、気付きを大切にしながら把握するように努力している。	○	利用者の生活のペースに全員を合わせることは大変難しい。集団生活での譲り合い等は必要になるが、困難なことが多い。問題点を少しずつ解決していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。職員の意見はとても活発で、気付きに対し、ケアの改善をおこなっている。	○	介護計画の内容を理解し、介護の方向性を統一していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスは利用者の状況が変化した時に行い、現状に即した計画を作成している。	○	SOAPの活用で、記録が介護計画書と一致したものになるように、努力を継続していきたい。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAPによりそれぞれの問題点を明らかにすることができた。それを評価し、計画の変更を行っている。	○	SOAPの記録の充実をはかるため、職員同士の意見交換を重視していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	会社全体が介護に対し多方面のサービスをおこなっている。アドバイス、意見交換・急変時の対応など強力体制がある。	○	多様なサービスを提供できる会社であることを外部へもアピールしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事に老人会の協力得ることが出来た。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			社会への貢献活動などへの参加ができることを願っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会への参加をしてもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度のかかりつけ医による往診を行なう体制ができた。緊急時の協力も得られている。	○	今後もかかりつけ医との連携を大切にしていきたい。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>周辺症状に対応できるケアを心がけているが、必要時には受診していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>利用者の加齢により、日頃の健康管理、急変時の対応に看護職の必要性を感じる。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>サマリーの形式の再検討を行った。より充実を計るために、看護師等のアドバイスを加えた。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>家族の意見を尊重し、本人の意思が第一に考えられるような終末期ケアを志したい。早期の話し合いは家族に実感がなく、途中でかわることもある。家族間での統一した意見が、重要である。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>評価・検討を行い、チームとして、その人らしい終末期を考え、援助を心掛けた。家族の判断等の重要性を感じた。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>移動後、タイミングを図りながら面会することが出来た。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理については徹底できている。プライバシーの確保について研修を行い、相手の立場を考えるようにしている。	○ GHでの言葉使いについて、家庭ではあるが、他人である上の問題について取り組みたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意志の確認は行っている。	○ 全てに関し、利用者に声をかけ、自己決定を求める支援を心がけたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを知るために家族等の協力を得、様々な情報を聞くことが出来ている。その人らしさをもとめる努力をしている。	○ その人らしさに少しでも近づけることと、共同生活を送ることの難しさを他施設が、どのような取り組みをしているかの情報収集を行いたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	介護度の重度化により理髪士の訪問サービスも行なっている。カットは利用者に合わせ、その人らしい髪型にしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けは利用者の重度化により出来ないことが多くなった。全員そろっての食事を心がけ、笑顔がみられるよう努力している。	○ 食事を楽しむための援助を心がけたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒等好まれる方はいない。おやつは利用者の多くに体重増加等がみられ、医師からの制限指示がでたため職員が管理している。	本人の好きなものを好きなだけ食べていただけるとよいと思う。自己管理が出来る、認知症は少ないのではないかな。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄時間に合わせ、トイレへの誘導を行い、排泄パターンを観察することで、失禁を減らす努力を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の週3回の入浴で、施設側で決定している。入浴順については本人の希望を聴いている。		好きな時間に、個別で対応出来ることへの努力を行いたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	横で添い寝をしたり、眠るまで付き添って安心している。夜間の睡眠不足時には、午前中ソファで休息を取ってもらっている。	○	その人その人の睡眠パターンを把握・分析し適切な対処を行なっていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦等は家族の協力により、収集できている。それを活用した声かけを行なっているが出来る人が少ない。俳句・塗り絵などを楽しんだり、散歩やドライブで気分転換を行っている。。	○	役割を見つけ、習慣づけが出来る援助をしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いにより所持するかどうかを決め、所持している人については職員が支援している。	○	各自が好きなものを購入できるよう援助したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には出来るだけ散歩・ドライブを楽しんでいる。季節ごとの行事に外出を取り入れ、楽しんでいる。	○	積極的に外へ出て季節を感じ、体力維持につなげていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事企画として花見・遠足等を企画し、家族にも参加してもらっている。	○	個別での家族訪問等の企画を考えて行きたい。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に合わせ援助を行い、家族あての年賀状を出した。	○	本人の希望があれば援助していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問は大変多い。協力を十分得られている。共に利用者本人のケアを考えられる関係が出来ている。	○	今後も家族の来所をどんどん受け入れ、家族と過ごす時間を大切に出来る援助をおこないたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に取り組んでいる。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ、危険防止の為に施錠を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	大きな事故につながらないように情報を共有し、職員全体で気をつけている。	○	危険に対し、常に情報を共有できる態勢を整えていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	毒性のあるもの等は利用者の手の届かないところに置いている。	○	今後も注意深く保管・管理に努めたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員全員が事故防止に前向きに取り組んでいる。	○	ヒヤリ、ハットの情報を共有し、大きな事故の防止に役立てたい。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	連絡体制を把握し、看護師より対応の指示をうけている。	○	今後も継続的に行なっていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	行なっていない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	説明の方法が難しく、捉え方に違いが生じることがある。	○	GHから二人、家族側も二人以上でのカンファレンスが理想で、積極的な働きかけを行いたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化に気付いたときは、バイタルを測定し、直ちに看護師に報告し指示を受けている。	○	言葉で体調変化を話すことが出来ない認知症高齢者の変化に気付くことが出来るケアを行いたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに入れ、分からない事は看護師、薬剤師に聞いている。注意事項に関しては、日報及び連絡ノートにて職員に周知させている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、ヨーグルトを昼食に出している。水分摂取量をチェックを行い、少ないときは工夫をして1000cc以上を確保している。日中の運動量を確保するための援助をおこなっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている、口腔内で気になる事があれば、歯科衛生士により指導を受け、口腔ケアに役立っている。		

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、及び食事の摂取量は、毎日個人ファイルに記入している。不足している場合は声かけ等の工夫を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの感染者が2名でた。手洗い、うがいの励行。漂白剤を使用して、掃除を行っている。	○	より一層、手洗い、口腔ケアを重視していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日購入し、使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花などを飾り、気を配っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭いのない清潔な空間を保持し、季節に合わせた飾りつけを利用者と共に行なっている。	○	居室の臭いに対する、取り組みを行いたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室での時間を大切に援助している。	○	ホールでの、小グループに対する援助を行いたい。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地がよくなるようにと考えて、工夫をおこなっている。家に近づけるため、家族に協力をお願いしている。好みに合わせて、室温の調節を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は常に行なっている。臭いに対しても消毒・消臭剤を使用している。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に気を配ったバリアフリーの設計になっている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	公文学習を取り入れ、認知症の進行を抑える努力を、行なっている。職員の対応が異なることがあり、利用者の習慣づけを妨げている。介護目標を暗記することで、意識の共有を行っている。	○	職員への情報の周知を徹底し、介護目標にそったチームケアが出来るようにしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物がガラス張りになっており窓越しに外の景色がよく見え、前を通る方々と交流ができています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

2階にあり見晴らしがよく、桜・つつじ等が見え季節を感じることができる。食事は好みを反映し、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくして提供している。歯科衛生士の協力があり、口腔ケアが行き届いている。今年度より職員の研修をGH独自で行い、技術向上に取り組んでいる。